猪苗代湖、環境保全とは何か―ラムサール条約と自治体―

2025年7月15日、猪苗代湖がラムサール条約＝正式名称「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」に登録された。環境省のHPによれば「猪苗代湖に生息・生育する動植物が保全され、ワイズユース（持続可能な利用）が促進されることが期待されます。」とある。「ワイズユース」とは、何に対するものなのか、説明が必要である。

話は変わって、7月5日に、猪苗代湖北岸の天神浜に行った。ここには、菅原道真を祭った小平潟天満宮があり、その南には天神浜がある（写真参照）。天満宮と天神浜の間にある駐車場に行くと、状況が変わっていた。駐車場から天神浜に行く道は、バリケードで閉鎖され、立札があった。バリケード前から見える浜周辺はアスファルト道になっていた。

この浜は、かつては立ち入りが自由であった。私がかつて勤務した猪苗代高校のボート部の練習地で、天満宮の隣には艇庫もあった。顧問であった1987年ころは、夏場は21時ころまで練習をしていた。当時は、駐車場から波打ち際まで砂の道であった。浜辺には、番小屋があり、貸しボートが並び、観光客がボートを湖に出していた。1988年出版の「磐梯火山と湖の生いたち」(猪苗代盆地団体研究グループ編著）の表紙の写真も、天神浜で撮影したものである。

現状からみて、上記の環境省HPのうたい文句「猪苗代湖に生息・生育する動植物が保全され・・・」が、守られているとは到底思えない。公的な財産であるべき猪苗代湖の浜辺が自由に利用できない現状は、「ワイズユース（持続可能な利用）が促進される」とは異なっているように思える。自治体は、この現状を「ラムサール条約の精神と合致する」と考えているのであろうか。

話は、天神浜の北にある小平潟天満宮である。ここは、948年に菅原道真を祭って作られた神社で、日本三大天満宮とされる。久しぶりに行って違和感を覚えた。まず、入り口に「パワースポット」なる看板があった。「パワースポット」とは何なのか、私には理解できない。境内に入ると、かつての荘厳さが失われていた。かつては、薄暗い参道の奥に社殿があり、威厳を感じるものであった。ところが、現状は境内の樹木が伐採され、荘厳さがまるでなかった。奥にある社殿も周辺の樹木が伐採され、社殿がむき出しの状態であった。写真のように、樹幹の直径約1ｍ樹齢約200年の松が多数伐採されたばかりであった。私は、1987年前後には、その荘厳さに惹かれ良く来ていた。しかし、現状の天満宮には魅力を全く感じない。現状は、天満宮の歴史的な背景を忘れ、世の風潮に迎合した改悪である。世の風潮など一時的なもので、歴史の流れから見たら一瞬にしか過ぎない。

また、この周辺から、長瀬川の出口「銚子の口」への道がある。かつては自由に通行できたが、現状は通行止めになっていた。この付近では、猪苗代湖に辿り着けないのである。

7月15日のラムサール条約加入、そして天神浜周辺の変化、この矛盾を自治体はどう考えているのであろうか。目先の利益追求ばかりしていると、そのツケは確実にめぐってくる。私が別稿で報告している「会津テラス計画」と共通する問題である。

（2025.07.15　福島支部　千葉茂樹）

そくほう No.826

2025年12月1日発行　（毎月1回1日発行）

編集　地学団体研究会全国運営委員会事務局　　発行　地学団体研究会

〒171-0022　東京都豊島区南池袋4-16-6 古峯ビル402　　TEL：03－3983－3378　　FAX：03－3983－7525

Email：chidanken@tokyo.email.ne.jp　　https://www.chidanken.jp

郵便振替　00160－2－144318　地学団体研究会